

横浜港南本牧ふ頭 MC-3 コンテナターミナル 完成・供用式典が開催されました

平成27年4月16日（木）、「横浜港南本牧ふ頭MC—3コンテナターミナル完成・供用式典」を同ターミナル内において、関東地方整備局、横浜市、横浜港埠頭株式会社の共催により開催されました。

当日は天候にも恵まれ、鈴木国土交通大臣政務官を始め、地元選出国會議員、横浜市議員、港湾関係者等、約110名が出席をされました。

式典は、越智関東地方整備局長の式辞で始まり、鈴木国土交通大臣政務官からご挨拶、来賓として出席いただいた星野衆議院議員と佐藤横浜市会議長から祝辞、牧島衆議院議員から祝電を頂きました。

その後、今井京浜港湾事務所長から事業経過報告を行い、最後に鈴木国土交通大臣政務官、林横浜市長他9名によるテープカットが行われました。

【完成・供用式典概要】

日時：平成27年4月16日（木）11:00～11:45

場所：横浜港南本牧ふ頭 MC3 コンテナターミナル特設会場

参加者：約110名

次第：

- ①式辞（越智局長、林市長、高島社長）
- ②挨拶（鈴木国土交通大臣政務官）
- ③来賓祝辞（星野衆議院議員、佐藤横浜市会議長）
- ④来賓紹介
- ⑤事業経過報告（今井京浜港湾事務所長）
- ⑥祝電披露
- ⑦テープカット



（テープカット）



（鈴木国土交通大臣政務官）



（星野衆議院議員）



（越智関東地方整備局長）

横浜港南本牧ふ頭MC-3コンテナターミナルの施設概要

- 世界最大級のコンテナ船にも対応できる、国内唯一の大水深・高規格コンテナターミナルであり、国際コンテナ戦略港湾の中核的な施設です。

【施設概要】

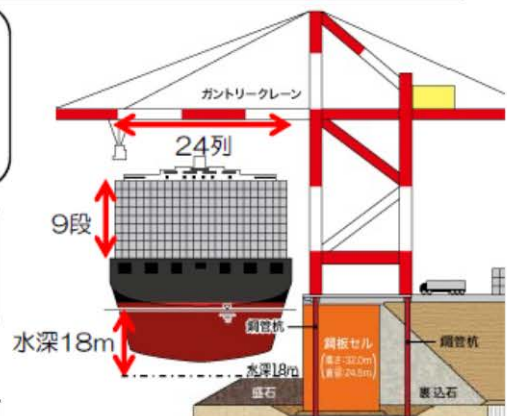
岸壁（耐震強化）：水深18m【コンテナターミナルとして国内最大】
 総延長480m（取付部含む）
 コンテナクレーン：4基（24列対応、9段クリア、免震構造【世界最大級】）
 総面積：22.5ha
 コンテナ蔵置能力：13,300TEU
 特徴：MC-1・2コンテナターミナルと一体的に運用することで効率化を図っています。



- 国際基幹航路に就航する船舶の大型化に対応できます！

➢ 水深18mの大水深岸壁とともに、24列9段対応の大型ガントリークレーンを設置（いずれも我が国では初の採用）しており、世界最大級の約18,000TEU積みのコンテナ船にも対応できます！

➢ 日本と直接結ぶ欧州・北米向けの国際基幹航路に就航する船舶が大型化する中で、我が国への国際基幹航路の維持・拡大に向けた環境が整います！



【世界最大級のコンテナ船「Maersk Mc-Kinney Moller」】



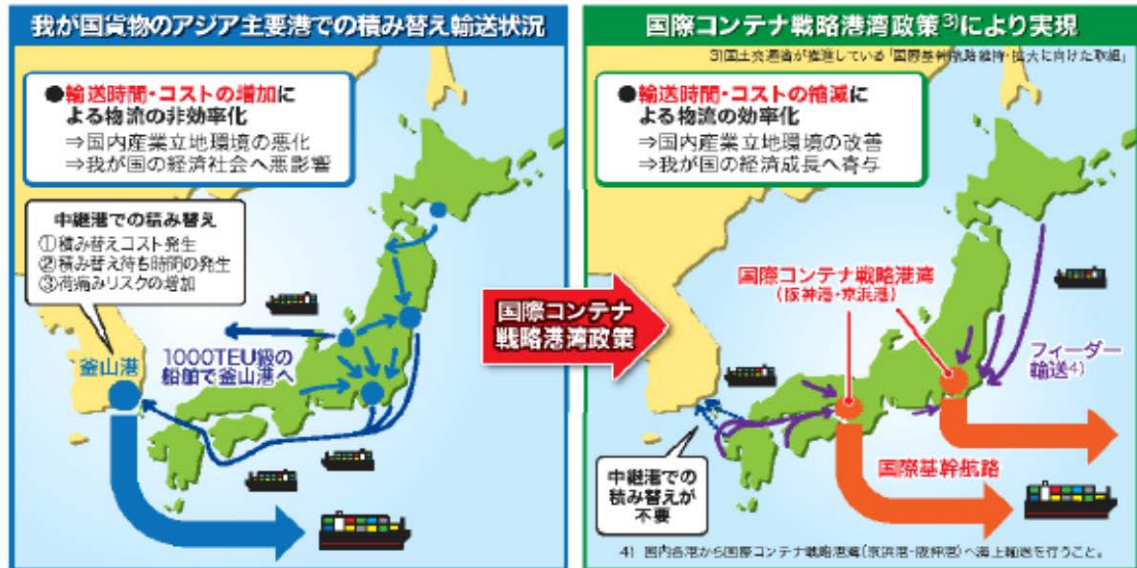
全長×全幅	399m × 59m
満載喫水	16m
最大積載個数	18,340TEU

東京タワー（全長 333m）



【整備効果①】 大幅な輸送コストの削減

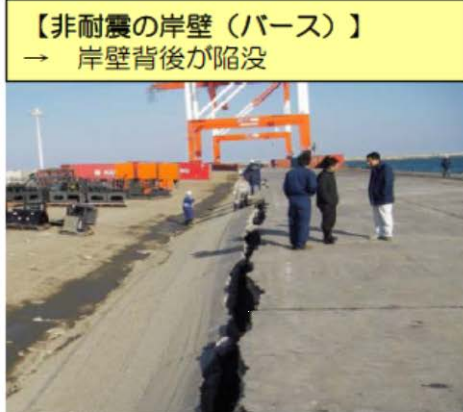
MC-3コンテナターミナルの整備により、日本と直接結ぶ欧州・北米向けの国際基幹航路が維持・拡大され、海外での積み替えによる非効率な輸送コストを回避することが可能となり、**年間約47億円の輸送コストが削減**されます。



【整備効果②】 大規模地震に強いコンテナターミナル

●大規模地震災害発生後にも**速やかに幹線物流機能が確保**されます！

【事例：東日本大震災における岸壁等の被災状況】
(茨城港常陸那珂港区)



東京湾の入り口に近い南本牧ふ頭において、**耐震強化されたコンテナターミナルが整備**されることにより、首都直下型地震等の大規模地震災害発生後にも**速やかに我が国の経済活動や国民生活に必要な物流の復旧が可能**となります！